

学校だより

令和3年度 第13号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年3月24日

岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「感謝」と「決意」を表しながら締め括った3月

校長 藤田 忠久

新型コロナウイルス感染急拡大に加え、世界では「ロシアのウクライナ侵攻」という重大事が起き、改めて「健康」や「平和」の大切さや有り難みを痛感する3月となりました。それでも、岐阜小学校では大活躍の6年生卒業を祝福する教育活動を中心に、子供たち一人一人が「感謝」と「決意」を、言動や姿で表す3月の学校生活を送りました。

3月12日（土）には、PTAからの挑戦状「脱獄中」（リアル脱出ゲーム）というイベントが行われ、これまで自分たちの楽しみを我慢しながら、学校や下学年のために貢献してきた6年生に対して「思い出に残る催しを開いてやりたい」という大人の本気が、6年生の「むっちゃ、楽しかった！」という満面の笑みを引き出し、大成功で終了しました。



1月末に「なかよし活動」引継会を行って遊びの計画・準備を順次交代しながら、3月の4日（金）「全体会」、9日（水）「なかよしグループの会」、16日（水）「6年生からの放送集会」と予定していた「6年生ありがとうの会」は、対面形式（face to face）での実施にこだわって、異学年交流のできない「まん延防止等重点措置」適用期間が明けるまで延期することとしました。この間、5年生をはじめとする在校生は「どんな願いや目当てで行うか？」「その願いやめあてに向けた内容はどうか？」「内容を具現するためにどんな手立てや工夫がいるか？」…目的意識を重視しながらも、6年生への感謝の気持ちをどう表すとよいかを真剣に話し合い、準備や練習を重ねてくれました。そして迎えた22日（火）、最後の「なかよし遊び」、「なかよし引継式」、1～5年生から6年生への「感謝と決意を伝える発表」、6年生から「各学年へのメッセージと歌（ビデオ）のプレゼント」の全てを、午前中に（半日で）行いました。今年度の新たな創造として圧巻だったのは、Teamsを使った電子黒板（デジタルテレビ）への「ミラーリング」による「ライブ中継」でした。「6年生と各学年の集会」を全校の「児童集会」に広げ、終わりの会でも「放送室からのテレビ放送」から「現場でのライブ中継」に切り替える挑戦を成功させました。この日の様子を見るだけでも、いろいろな場面で子供たちの成長を実感することができました。



18日（金）には『6年生への校長講話』として、キャリア教育の側面から「教職の魅力」を話した後、「これからの社会（AIの時代）を生き抜くためには、「あん（案）、イン（in）、うん（運）、えん（縁）、おん（恩）」で表す力（自分なりの解釈）が必要だ」という考えを伝えました。

最後になりましたが、with コロナの令和3年度も、学校経営や教育活動に多大なご理解とご協力賜り、本当にありがとうございました。

学校だより

令和3年度 第12号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年2月28日

岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

感染急拡大における影響と成果

校長 藤田 忠久

オミクロン株による新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、4学級の閉鎖と職員5人が不在という中で「入学説明会」開催したり、ワクチン接種の副反応によって学級担任5人が欠勤する中で授業を進めたり、学級閉鎖のない授業日が僅かに4日間だったり、… 2月の岐阜小学校はまさに「緊急事態」となりました。そんな中でも「学校での感染防止対策」「感染リスクの高い活動の回避」「家庭における感染防止対策等の依頼」「児童・教職員へのメンタルケアとハラスメント防止」などを、より一層徹底するように努めました。また、コロナ不安等により登校できない児童に対する「オンライン等の学習支援」に加え、学級閉鎖で自宅待機となった児童に対し「個人用タブレット端末を活用したリモートによる授業や学習活動の指示」を充実させるようにしました。学級担任や教科担任が自宅待機となって出勤できない場合には「他の教職員による代替授業」を中心にしながら、両学級とも同じ学習内容にした「学年での授業」、自宅待機となった教員による「自宅からのオンライン授業」、閉鎖していない隣の学級の「授業のライブ配信」も行うようにし、児童の学びを進めるBCP（事業継続計画）を展開するようにしました。年度当初に計画した「個人懇談」「授業参観」も、リモート（オンライン）によって実施することができました。

一方、個人用タブレット端末（iPad）を活用した教育活動は、この2月に一段と進化・発展を遂げられたのではないかと感じています。低学年の子供たちも「リモート授業」への抵抗がなくなってきたように思います。高学年の子供たちは、iPadの中からでも授業に積極的に参加をしようとしてきたように思います。発表形式の授業参観、個人懇談等の面談は、オンラインの可能性が広がったように感じています。



これらの「教育DX」推進に関しても、「体験」に学びが加わって「経験」となり、「経験」の積み重ねが「成長」へと繋がることを、実感することとなりました。しかし、年間のまとめと新年度準備の「3月の学校生活」は、やはり対面での「当たり前」の学校生活を送りながら、一人一人が1日1日、1分1秒を大切にしていけるようにしなければならないと痛感しています。異学年縦割り活動「なかよし遊び」や児童会（委員会）活動では『伝統継承』を意識した「引継ぎ」が延期されています。4月の進級に向けて目指す姿を確かめたり、一人一人が心構えをもったりする取組も十分には動き出せずにあります。6年生は、小学校生活最大で最高の儀式的行事である「卒業証書授与式」の準備をはじめ、奉仕作業を中心とした「愛校活動」や「卒業文集」製作などの『卒業プロジェクト』を進めており、その様子からは、6年間お世話になった学校への「感謝」と巣立ち行く最高学年としての強い「決意」を感じます。「岐阜まん延防止延長検討～政府『3月21日まで』浮上」という新聞報道もありますが、6年生に安心して卒業してもらえるように「6年生ありがとうの会」への取組や持ち方も「創意工夫」し、しっかり「感謝」を伝えられるようにしたいと思います。

コロナ禍の昨年度～with コロナの今年度の中で、最大の難局となった2月を何とか乗り越えられたことを「岐阜小学校の自信と誇り」に繋げ、今できる「最高の3月」となることを目指し、「何ができるか」「どうしたらできるか」を考えていきたいと思っています。

学校だより

令和3年度 第11号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年1月31日

岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

岐阜小学校「ふるさと学習」の魅力

校長 藤田 忠久

1月21日に、5年1組「ふるさと学習」（総合的な学習「長良川と共に生きる」）の研究授業を行いました。「長良川と共に暮らしていきたい」という願いの実現に向け、「長良川の風水害から命や生活を守る取組について調べたり発信したりする活動を通して、防災に関わる人々の願いや自分たちにできることに気づき、地域の一員として進んで行動しようとする。」を単元のねらいとし、「風水害が迫っている中で下級生の命を守るために防災マップに載せなければならない情報を考える」という課題に向かう学習でした。国土交通省木曽川上流河川事務所からもコミュニティ・ティーチャー（CT）として3人の方々にお越しいただき、専門的な見地からの助言も受けながら、前の週に行ったDIG（災害頭上訓練）の発展として「岐阜小防災マップ」作成のために話し合う活動となりました。子供たちは、資料、現地調査、既習事項、既有経験等を根拠に、自分の考えを語ったり、エリアごとのグループの仲間と考えを練り合ったりし、「主体的・対話的で深い学び」を繰り広げてくれました。



放課後の全校研究会では、岐阜市教育委員会学校指導課の車戸主査から、「岐阜小学校のふるさと学習の魅力」として「地域創造力という資質・能力をつけようとしている」「学びの有用性や深まりが実感できる」「進んでふるさとに関わろうとする社会参画力が高まる」「シビックプライド（当事者意識を伴うまちへの誇り）が醸成される」「探究的な見方・考え方を働かせている」「課題解決の見通しと切実感をもって取り組んでいる」「『富士山チャート』という思考ツールを駆使している」「収集した情報を比較しながら分類・順位付けをしている」「子供の思考を誘発する教師の問い返しが為されている」「CT（国交省）からの話（評価）で学びの深まりが自覚できる」と整理していただき、本校の実践に自信をもつことができました。

また、「博報賞」（日本文化・ふるさと共創教育領域）審査員として、受賞校への取材で来校された横浜商科大学教職センター長の東風教授からも「学校の研究に継続性があり、探究型の学習が展開されている。まさに『令和の日本型学校教育の構築』を目指す今後の教育のモデルケースになっている。」と仰っていただきました。さらに、その翌日にも、

コロナ禍でも「学びを止めない」は一般の学校、「知恵を使って学びを高めている」のが岐阜小学校だと思います。取材してこれほど「博報賞・文部科学大臣賞の受賞にふさわしい学校だ」と痛感したことは、今までありませんでした。今後は今回の取材を生かし、教育誌等に「博報賞」受賞校の報告と募集の広告記事を打つ段階に入ります。新型コロナウイルス感染急拡大の影響で、他の受賞校への取材は厳しい状況のようです。従って、令和3年度「博報賞」受賞校の記事は、御校の活動や全校研究の姿の紹介で埋め尽くされることになるようですので、私としても大変嬉しいです。

という誇りに繋がる有り難いメールが届きました。掲載される予定の教育専門情報誌は、4月発売の明治図書「授業力&学校経営力」、5月下旬配布の学研「教育ジャーナル」、6/15発売の小学館「総合教育技術」の3誌だそうです（12月取材の岐阜新聞には、本校の教育実践をまとめた記事が、3月中旬に1面を使って報道されるようです）。楽しみにしたいと思います。

学校だより

令和3年度 第10号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和3年12月24日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

今年の漢字、岐阜小学校は「為」！

校長 藤田 忠久

日本漢字能力検定協会は12/13（月）に、今年の世相を漢字一字で表現する年末の風物詩「今年の漢字」を発表しました。全国公募により決定し、京都・清水寺の森清範貫主が揮毫した2021年の漢字は「金」でした。長く暗いコロナ禍において開催された東京オリンピック・パラリンピックで、日本人選手が活躍し多数の「金」メダルを獲得。大リーグでは大谷翔平選手がリアル二刀流でシーズンを通しての大活躍でMVPを満票で受賞、松山英樹選手による日本人初のマスターズ制覇、藤井聡太棋士の最年少四冠達成など、国内外でこれまで成し得なかった多くの「金」字塔が打ち立てられました。また、新型コロナウイルス関連の給付「金」等で多く使われました。これらが、今年の漢字が「金」となった主な理由のようです。

岐阜小学校も、今年は「博報賞・文部科学大臣賞」という「金」字塔を打ち立てました。が、岐阜小学校としての令和3年を、文字で表すとすれば、私は「為」という漢字を選びたいと思います。「為」という漢字には、「なす。する。行う。意識してする。ため。ために。ためにする。」という意味があります。令和2年度をまとめる各学級の活動、卒業に向けて取り組んだ「6年生ありがとうの会」や「卒業証書授与式」に始まり、今年度になってからの日常生活や通常の授業、校外学習、学校行事や学年行事、体験活動、児童会活動等の様々な教育活動は、どれも「為」で表されるのではないかと思います。ことわざ「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」の意味は「できそうもないことでも、その気になってやり通せばできるということ」で、江戸時代後期に米沢藩主の上杉鷹山が、家臣に「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という歌を教訓として詠み与えたという話は有名です。岐阜小学校では、水泳学習、運動会、修学旅行、児童集会、なかよし遊び、親子行事、授業参観、ふれあいフェスタ、…with コロナの状況でも「無理だ」「できない」と諦めるのではなく、「どうしたらできるだろう?」と考えて実行することができました。これらは、マスク着用、手洗い・手指消毒、3密回避、黙食等の「感染防止対策」を徹底するという「為」によるものだと実感しています。



明日（25日）からは、令和3年を締め括って新たな年を迎える「冬休み」が始まります。岐阜小学校の「冬休み」のテーマは、昨年度に引き続き「〇〇家の年末年始の暮らしにゆったり浸かる～感染予防に徹した豊かな“対話”でリフレッシュ～」です。「家族と豊かな時間を共有（ゲーム・動画サイト依存からの脱却）して居場所を確認するとともに心身のリフレッシュを図ること」「冬の友を十二分に活用しながら学習は無理なく選択的に行うこと」「新型コロナウイルス感染症の感染予防の徹底に十分に努めること」を意識して欲しいと思います。曜日の関係から、例年よりも少し長い「冬休み」で、休み明けにも1日登校したら3連休が待っています。年明けの岐阜小学校も「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」の精神で取り組んでいけるように、気分一新となる「冬休み」を過ごすことを願っています。

学校だより

令和3年度 第9号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和3年11月30日

岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

訪問事業や公表会で参観者から多くの称賛！

校長 藤田 忠久

11月には、岐阜市教育委員会各課の「訪問事業」、第3ブロック「学校人権教育研究会」があり、岐阜小学校の授業（子供たちの学習の様子）を多くの先生方に観ていただきました。それらの機会には、以下のような嬉しいコメントをたくさんいただくことができました。

市教委からは、学校安全課の生徒指導訪問では「どの子ども穏やかな表情で学習に臨んでいる」「一人一人の自己肯定感を高める声かけが見られる」「仲間との関わりを高めることを意識した教育活動がなされている」、学校給食課訪問では「配膳の手際が良く、当番以外はとても静かに待機している」「黙食の徹底と放送の充実の相乗効果が見られる」「喫食後の片付けや牛乳パックの洗浄も大変静かでスムーズである」「アレルギー対応も徹底～定着している」「食後も黙ってできることを、行う習慣が身に付いている」、学校指導課の人事管理訪問で「ひまわり学級や低学年は安心して授業に臨んでおり、中・高学年と段階が進むにつれて、発言や聴き方から深い思考が伝わってきた」「教師や仲間の言葉への反応ができ、息の長い発言など発信力や表現力が育っている」「聴く力や対話力が着実に育っている」「子供たちが掲示物を学習資料として活用できている」「良いところを見つけて認め合おうとする子が育っている」「児童の主体性や児童会のメッセージ性が非常に高い」「より良いものを自分たちで創ろうとする子供たちの文化が継承されている」「子供たちの地域愛を随所に感じる」「地域の一員としての自覚や故郷への愛着が高まっている」など、来校された先生方から「日常的な指導が徹底され、その賜物として子供の姿に繋がっている」ことを評価していただきました。

3B学校人権教育研では、低学年部会で「学習規律が整っており『学び方』も定着していて、学級の雰囲気は温かい」「『〇〇さんに～とってもらえて』などの話し方ができている」「自分事と捉えて考えている」「コミュニケーション力がしっかり身についている」、中学年部会で「挨拶や返事などきびきびとしていて学習規律が高く気持ちが良い」「傍観者を作らない指導の積み上げがあり子供が育っている」「学活や総合的な学習の学びが生きている」「子供同士で仲間の意見を大切にしているところが素晴らしい」、高学年部会で「心を開放している子供たちが本当に思っていることを出し合ってリアルな自分にできることを考え合っている」「温かい人間関係を構築していく難しさを、自分の問題だと捉えて乗り越えようとしていた」「真に相手を思うとはどういうことかを真剣に考え合っていた」「学級全体の人権感覚の高まりが伝わってくる素晴らしい実践だった」等の感想や指導がありました。

全体指導では「自他の大切さが実感できる学校・学級づくりの推進がなされ、児童の人権に関する知的理解の徹底が図られている点が素晴らしい」「どの学級も、自分の思いが自由に表出できる開放的で支持的な人間関係があり、自分のことを受け止めてもらえるという安心感が漂っていた」というお褒めの言葉をいただきました。



明日（12/1）から学級ごとの授業参観が始まります。上記のように成長してきた子供たちの姿を、オンラインではないことはもちろん、発表形式でもない通常の「授業スタイル」の学習の様子としてご覧いただけます。万障お繰り合わせの上、ぜひ学級懇談会までご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

学校だより

令和3年度 第8号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和3年10月29日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

児童の活躍と「栄誉・名誉」の連鎖！

校長 藤田 忠久

岐阜小学校HP「お知らせ」欄等でお伝えしているように、本校の教育活動が認められ、栄誉に輝いたり、活躍（貢献）の場をいただいたりする事案が続きました。

一つは、第52回「博報賞」の博報賞・文部科学大臣賞受賞です。「博報賞」は、博報堂教育財団創立とともにでき、子供達の学習場面・生活場面における「教育実践の活性化」を果たしている優れた活動が顕彰されるもので、本校は「日本文化・ふるさと共創教育」部門に応募し、最高の栄誉に輝いたのです。もう一つは、オンラインで開催された第77回「日本PTA東海北陸ブロック研究大会・清流の国ぎふ大会」に「GIFTー岐阜人（ぎふと）からの贈り物ー」として岐阜小学校6年生による①学校・地域の紹介、②「ふるさと学習」の紹介、③「英語でふるさと自慢」の3部構成の録画映像が流されました。大会主催者（P連本部）からは、深い感謝を述べられたうえで、その内容と表現についても絶賛いただきました。岐阜県・岐阜市を代表して「岐阜の学校教育」（一端）を紹介することが、大きな貢献に繋がったものと喜んでいました。

また、10月には「緊急事態宣言」が解除され、校外での体験的な学習でも大きな成果を上げました。2日の土曜授業（校外学習）では、ふるさとの自然や歴史・文化に触れ、多くのことを学びました。6～7日には、6年生が一泊二日で高山～白川郷に「修学旅行」に出かけました。子供達の「岐阜市の観光誘致の参考にする」という研修意欲はとても高く、感染防止対策の徹底ぶりも本当に誇らしく感じました。熱心な見学態度、行儀の良さ、黙食の徹底ぶりについては、施設やお店の方からも誉めていただきました。5年生は、22日に郡上あゆパークに



「日帰り野外学習」に行ってきました。長良川上流や世界農業遺産の“鮎”について五感を使って学び、多くの収穫や宝物ができました。あゆパークの先生からも、入所時の挨拶や態度を「素晴らしい！」とお招きいただき、退所時にも「本当に素晴らしい子供達、学校として素晴らしいと思いました。」とお褒めの言葉をいただきました。この日は2年生も、メディアコスモスへ「おでかけモディリティ・マネジメント」事業に参加し、バスクイズや乗り方教室など大変楽しく学ぶことができました。

そして、学校便り10月号（前号）でもお伝えした運動会への取組でも、多くの学びが見られ、大きな成長へと繋げています。学級毎の応援練習、学年での競技練習、学年部での演技練習、全校での開会式・閉会式・児童会種目・応援の練習、係会での準備、選抜メンバーによる選手リレーの練習、そして、団リーダーの指示や指導、…運動会スローガン「全力」（～楽しむ思いやる やりきる～）を絶えず意識し、仲間と力を合わせて一生懸命活動する姿は、本当に頼もしく思います。

10月の教育活動を振り返ってみると、改めて“経験”を積み重ねることの大切さに気付かされます。修学旅行の出発式でも話したことですが、私は「“体験”に“学び”を加えて、次へと生かせる“経験”となる」と思っています。岐阜小学校は、これからも「体験的な学習」の機会をできるだけ減らさないよう努めていきたいと思えます。